

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



福島県白河市
が応援するふるさと名物

**「白河小峰城と
城下町ツーリズム」**

～藩主松平定信の歴史と文化・産業
(白河そば・日本酒等) を求めて～

ふるさと名物応援宣言



『白河小峰城と城下町ツーリズム』

～藩主松平定信の歴史と文化・産業（白河そば・日本酒等）を求めて～

平成28年2月9日

福島県白河市

地域のプロフィール

◆白河市の概要

福島県の南部中央に位置し、阿武隈川に沿って東西に市街地が広がっています。高燥・冷涼・清涼な高原性の気候で、四季を通して暮らしやすい風土を有しています。豊かな自然環境のほか、白河関跡や南湖公園、小峰城に代表される歴史や文化、白河提灯まつりや白河だるま市などの伝統行事、白河そばや白河ラーメンなどの食文化を有しており、多様な地域資源にも恵まれています。

近年、東北自動車道、東北新幹線などの高速交通体系の整備、さらには、アクセス道路の改良等に伴い、首都圏との近接性が増し、企業の立地、大規模住宅団地の造成、郊外型の大規模なショッピングセンターが建設されるなど、福島県南地方の中核として発展を続けています。



白河小峰城と城下町ツーリズム（1）～白河小峰城と城下町～

幾多の歴史をみつめた名城「白河小峰城」と城下町

小峰城は14世紀中頃がはじまりとされ、白河地域が会津領であった頃に整備された城郭や城下町を、初代白河藩主の丹羽長重が寛永6年（1629）から約4年の歳月をかけて大改修を行い、現在につながる白河のまちなみの基礎をつくりあげました。「奥州の押え」として防衛機能が整備されたあとは、名君「松平定信」など7家21代の大名が居城し、奥州街道を中心とした行政都市、商業都市として発展。まちなかには歴代の大名の影響を受けた由緒ある寺院や神社をはじめ、酒蔵などの歴史的な建造物や史跡などが数多く点在しております。慶応4年（1868）に勃発した戊辰戦争により焼失・落城したものの、城郭の象徴である三重櫓、本丸の正門・前御門が木造にて忠実に復元され、「日本100名城」にも数えられています。その後、平成22年（2010）には国の史跡に指定され、現在は東日本大震災によって崩落した石垣を修復していますが、伝統的工法によって積み上げる様子も新たな見所の一つとなっています。



藩主「松平定信」 ～白河の民を想い、白河をひらいた名君～

松平定信は、8代将軍徳川吉宗の孫にあたり、松平家の養子となって、天明3年（1783）白河藩主に就任。その後白河藩政の手腕を評価されて老中首座となり「寛政の改革」を実施しました。退任後再び専念した白河藩政では殖産興業（白河そば、白河だるま、日本酒等）や文化事業（南湖の築造、白河関の場所特定等）に注力するとともに、隠居後は「楽翁」と称され、文化人として茶道や和菓子文化の発展に影響を与えるなど、その偉業は白河の歴史・文化の基礎となっています。

白河小峰城と城下町ツーリズム（２）～ツーリズム、ツーリズム関連事業～

◆ツーリズム◆

「歴史・文化のまち白河」の観光ツアー

「白河小峰城」と城主松平定信の歴史と文化が今に息づく城下町。「歴史・文化のまち白河」を巡る観光ツアー開発などの取り組みを応援します。

藩主松平定信の白河藩政（文化事業・殖産興業）をたどる観光体験プログラム

庭園の整備や文化事業、殖産興業など、城主松平定信の白河藩政をたどる観光体験プログラムを応援します。

◆ツーリズム関連事業◆

藩主松平定信の業績に関連して地域資源を活用した商品の開発

「寛政の改革」は、白河藩政での手腕が評価されたものとされており、その成果と精神が脈々と受け継がれています。ツーリズムを彩るものとして、松平定信の業績に関連して地域資源※1 を活用した商品やその地域資源と白河小峰城の特徴を活かしたコラボ商品の開発を応援します。

※1 活用する地域資源は別記のとおり

◆白河小峰城

慶応4年（1868）戊辰戦争白河口の戦いにより焼失落城した小峰城は、約120年の時を経て、三重櫓、前御門が木造で忠実に再現され、現在は「日本100名城」に数えられ、平成22年（2010）には、国の史跡に指定されました。

江戸時代に築かれた石垣の美しさと端正な三重櫓、伝統の技が息づく造形の織り成す名城として、威風堂々とした佇まいを今に伝えています。



◆白河そば

古くから知られるそばは、松平定信が、白河高原の風土に合った作物として、冷害に強いそばの栽培を奨励したことが背景にあります。

冷涼な気候であり冷たい水がふんだんにある—おいしいそばを作る条件を備えた白河は、盛岡・信州・出雲とともに、日本4大そばどころともいわれており、今も市内の多くのそば屋がその味わいを競っています。



◆日本酒

松平定信が伊丹（兵庫県）から杜氏を呼び寄せるなど、酒造に力を注いでいました。白河の酒造りを支えているのは那須連峰の「おいしい水」。お酒はカリウム、カルシウムが豊富な軟水で仕込み、口当たりのよいものとなっています。酒蔵には「家つき酵母」と呼ばれるものがあり、それがお酒の品質を左右するといわれています。



◆白河だるま

起源については定かではありませんが、「瓦屋金七」が武州川崎大師で3年間修行したとされること、松平定信のお抱え絵師・谷文晁がだるまの顔を描いて手本に与えたことなどの伝承から、江戸時代後期ごろにだるまが作られたと考えられます。毎年2月1日に白河だるま市が開催され、白いだるまは開運祈願、赤いだるまや厄除けと家内安全の御利益があるとされ、多くの人々が買い求めにやってきます。



◆白河石

素朴で温かみのある落ちついた白河石は、色調と加工しやすさから、小峰城の石垣をはじめとする多くの建造物、墓石、住宅外構、灯籠などの材料、また土木建築用材として広く使われてきました。近年ではその特徴が高く評価され、公園用材としても数多く使用されています。

『白河小峰城』に関するツーリズムの見所（城跡）

◆三重櫓

櫓は、「矢倉・矢蔵」とも書き、もともと武器・食料の貯蔵や防御を目的として造られた建物で城郭の象徴となっています。

平成3年、木造で忠実に復元されました。



【白河城御櫓絵図・三重櫓】



◆前御門

表門とも言われ、その名のとおり本丸の正門として、裏門にあたる桜之門とともに本丸の防御を担っていた門です。三重櫓から前御門、多門櫓、桜之門と櫓と門が連続する構えの中心的な部分です。

◆石垣

初代藩主となった丹羽長重は、寛永6年（1629）から約4年をかけて、城郭の大改修を行いました。特長は、本丸・二之丸を総石垣造りにして、三之丸の各所の門付近にも石垣を築いたことがあげられます。



明治時代以降、本丸・二之丸を除く大半には、官公庁や住宅、線路・駅舎が造られ、多くの石垣は壊されました。それでも現在本丸を中心に約2kmの長さの石垣を確認することができます。

今に残る石垣は、江戸時代から現代まで何度も修復が行われました。そのため、石垣を観察すると、様々な積み方の石垣を確認することができます。

東日本大震災により崩落した石垣は現在修復中です。

◆白河集古苑

中世に白川城や小峰城を本拠として白河周辺を始め、最盛期には南東北の盟主的な存在であった白河結城家と、近世最後の白河藩主となった阿部家の両家に伝えられた貴重な古文書や美術工芸品を保存展示しています。特に結城家の古文書90通は国の重要文化財に指定されています。

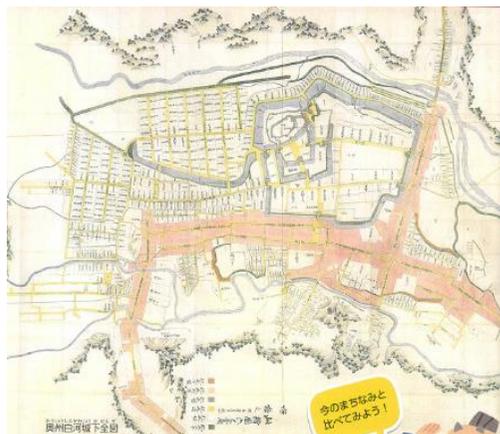


◆おとめ桜

本丸の石垣を積む際、人柱とされた娘の霊を慰めるために、一本の桜の樹を植えたとされています。三重櫓の隣には、そのことを伝える小さな石碑が建っています。春になると新たに芽吹いた「おとめ桜」が艶やかに城内を彩ります。



『白河小峰城』に関連するツーリズムの見所（城下町）



◆城下町白河

戦国時代の大名は、武士・商人・職人を城下町に集め、城の防衛機能とともに行政都市・商業都市としての城下町を建設しました。全国の主要な都市の建設は、ほぼこの時代に始まっています。

白河の市街地も、少なくとも今から400年以上前に戦国大名白河結城氏によって城下町が建設され、都市としての歴史が始まっています。

城下町エリアには、歴史的なまちなみを構成している建造物を歴史まちづくり法に基づく『歴史的風致形成建造物』に指定し、その保全と活用に努めています。

◆歴史的街路（カギ型）

幅の狭い道路や、交差する2本の道路の一方を意図的にずらして屈折する「カギ型」と呼ばれる造りは、敵の侵攻を遅らせるための城下町特有の道路構造です。



◆歴史的風致形成建造物



【紙屋醸造建造物群（桜町）】



【上の片野屋建造物群（桜町）】

◆酒蔵

酒造業の振興は、白河藩主・松平定信によるところが大きく、定信のそばに仕えた家臣の記録によると、上方の池田、伊丹から酒杜氏を招き、小峰城下の藤屋という酒屋で「白錦」「関川」という酒を造らせたと言われています。



【大谷忠吉本店の梁】



【千駒酒造の蔵内部】

『松平定信』に関連するツーリズムの見所（歴史）

◆白河関 ～旅人たちがあこがれた地～

白河は古くから交通の要衝として栄え、白河関がおかれていましたが、平安時代後期には廃れ、所在は長らく不明となっていました。

定信は、白河の歴史を検証するなかで、絵画や記録、地形、古老の話などをもとに白河関の場所の考証を行い、旗宿にあったと断定しました。その後この地に「古関蹟碑」を建立し、裏には断定に至った経緯が刻まれています。



◆南湖公園 ～土民共楽を今に伝える～

「南湖」は、名君であり、茶人であり、また、優れた作庭家でもあった定信により、享和元年（1801）に築造された日本最古と言われている公園です。

定信は、武士も庶民も共に楽しむという「土民共楽」の理念のもと築造し、周辺には17の景勝地を選びました。200余年の時を経てなお、吉野桜、松、楓など四季折々に優雅な風趣をたたえ、花と緑と水の園として、多くの人々を魅了しています。



【丹羽長重廟】

◆小南湖（しょうなんこ）

通称「小南湖」と呼ばれるこの地は、江戸時代に白河藩歴代藩主を供養する寺（菩提寺）などが置かれた場所で、初代白河藩主丹羽長重の墓や廟所をはじめ、元禄から享保期の藩主松平直矩・基知父子や、元禄期の藩主松平忠弘の子、清照の墓があります。

明治43年（1910）ごろに池の改修や桜・楓の植栽などが行われ、公園として整備されました。



【小南湖の様子】

藩主松平定信の白河藩政（文化事業・殖産興業）をたどる観光体験プログラムをご紹介します。

◆白河そば・そば打ち体験

「日本四大そば処」のひとつである白河そばは、約200年前から続く白河の食文化であり、そば打ちの技法は白河ラーメンを生み出したと言われていいます。これらそば打ち体験のほか、そば栽培を含めたグリーンツーリズム型プログラムを提供します。



◆日本酒・酒造り体験

白河の酒造は、元禄時代には行われ、藩主・松平定信が杜氏を呼び寄せ酒造りに注力したとされています。

1日体験から蔵人気分を味わえる本格的な酒造りまで、日本酒の嗜好に合わせた体験プログラムを提供します。



◆白河だるま・だるまの絵付け体験

だるまの顔は、藩主松平定信のお抱え絵師、谷文晁の意匠とされ、瓦職人が冬の仕事が少ない時期につくっていたと伝えられています。



福島県白河市
風水福だるま

毎年2月11日には「だるま市」がおこなわれ、たくさんの露天が並びます。

旅の記念に、あなただけのだるまはいかがですか？

◆街なか定期座禅会

7家21代の大名が入れ変わったこともあり、城下町には、多くの宗派の寺院があります。歴史ある寺院の厳かな雰囲気の中で、心を整える座禅や写経を体験し、白河の歴史や文化に触れる体験プログラムを提供します。



ふるさと名物に関連するイベント

春 ◆桜まつり

小峰城周辺で、桜の開花時期に開催されるまつりです。花見だんごや地場産品を販売する露天が並びます。

また、川越火縄銃鉄砲隊の演舞やステージイベント等が行われます。



夏 ◆白河関まつり

白河駅周辺が伝統芸能の発表や踊り流しなどで大いに盛り上がります。夜の市民納涼花火大会では、およそ5,000発が城山公園から打ち上げられます。美しく照らし出される白河小峰城とともに、華々しく咲き誇る花火を街の各所から眺めることができます。



秋 ◆白河提灯まつり

日本三大提灯まつり（白河・弥彦・一色）の一に数えられている白河提灯まつりは、白河地方の総鎮として、古くから人々の尊崇を集めてきた鹿嶋神社の例祭として、四世紀に渡り隆盛を極め、白河の人々の精神文化



の歴史、いわば心のよりどころとして、伝えられてきました。

現在は、参加町も23町と当初に倍する数となり老若男女、市民をあげての祭りに発展しました。提灯の油紙を通しての火の美しさは、現代社会の電気の明かりとは異なる神秘的なもので、それらの集合体としての行列の流れる姿は見るものの心をとらえて放さない光の芸術といっても過言ではないでしょう。

冬 ◆白河だるま市

小峰城とともに大改修された町屋は、小峰城をカギ型に取り囲むように築かれました。奥州街道沿いの天神町、中町、本町、横町、田町は「通り五町」と呼ばれ、それぞれに「市」が行われました。特に盛大に行われていたのが、年初めの市の神をまつる中町の「市神祭」で、後に、「だるま市」と称されるようになります。

毎年2月11日に開催される白河だるま市は、約700もの露店が立ち並び、白河だるまなどを買い求める約15万人の人々が訪れます。



◆市公認キャラクター

小峰シロ (おとめ桜より)

本丸の石垣を積む際、人柱とされた娘（おとめ）の霊を慰めるために、一本の桜の樹を植えたとされています。三重櫓の隣には、そのことを伝える小さな石碑が建っています。もとの桜は戊辰の戦火に巻き込まれて焼失しましたが、春になると新たに芽吹いた「おとめ桜」が艶やかに城内を彩ります。



おとめ桜のエピソードから誕生した小峰シロは東日本大震災からの復興のため、みんなに元気をもたらすよう活躍中です。現在、日本酒やお菓子など、地域資源をはじめとする様々なコラボ商品が開発され、地域の活性化に大きく貢献しています。

小峰シロの清酒



小峰シロの純米吟醸酒



※2012年10月13日、14日に東京秋葉原で行われた「地域キャラクター物産観光展in秋葉原 moe1グランプリ」で、全3部門中、キャラクター一般投票部門1位・観光部門1位・お土産部門2位となり、「moe1」の称号を得る。

◆白河バーガー三重櫓

白河バーガー三重櫓は、名前から想像できる通り、三重櫓をモデルに開発された三段重ねのハンバーガーです。地元産ジャガイモのハッシュドポテト、和風味の煮込み豚肉、新鮮野菜とスープで煮込んだ甘めのオニオンを、三重櫓（さんじゅうやぐら）の焼印を押した特製米粉バンズでギュッと挟んでいただきます。大口でガブリとかぶりつくと、ソースが絡んだ柔らかくてジューシーな豚肉とハッシュドポテトの食感が口の中に広がり、ピクルス代わりにきゅうりのたまり漬が意外な相性でいいアクセントになっています。



ふるさと名物に関する市の取り組み

◆白河市歴史的風致維持向上計画による歴史的風致の維持向上

白河市は、近世初頭に白河藩の政治経済の中心地として小峰城とその城下町が整備され、周辺の地域とともに今日まで発展してきました。史跡小峰城跡やその旧城下町には、歴史的な街並み、歴史的建造物が集積し、当時の面影を伝えています。平成23年2月、国の白河市歴史的風致維持向上計画認定を契機に、歴史的建造物等の修復、保存、整備など歴史的風致の維持向上を進めてきました。これらは貴重な観光資源として、「ぐるり白河文化遺産めぐり」など、松平定信ゆかりの建物や作品、城下町の趣を今に伝えるツーリズム事業に活かされています。

◆ふくしまDC（デスティネーションキャンペーン）による観光振興

市では、県南地域の市町村による「ふくしまDC県南推進協議会」を立ち上げ、地元観光関係者と自治体が、JRグループをはじめ全国の旅行会社などと連携して行う国内最大級の観光キャンペーン「ふくしまデスティネーションキャンペーン」を実施しています。東日本屈指のゴルフゾーンである県南地域の魅力を中心に、豊かな観光資源を活用した「歴史と花とうまいもんぐるり白河探訪の旅～通常編～」として観光ルートを紹介するなどPRを行っています。



◆新商品・新サービスの開発や販路開拓の取り組みを支援

白河市では、地域経済の活性化と雇用の促進を図るため、「ビジネスチャンス支援事業補助金」を創設し、地域資源を活用した新商品・新サービスの開発や、新たな取引先、事業提携先の開拓に取り組む中小企業者や創業希望者等を支援しています。



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

「白河小峰城」は歴史と文化の息づくまち「白河」のシンボルであり、白河市民の誇りであります。幾多の歴史を見みつけてきた名城「白河小峰城」は、名君「松平定信」の居城として一時代を築き、またその城下町は、定信の偉業とともに、その歴史的・文化的魅力を現代に伝えています。

白河市では、「中心市街地活性化基本計画」や「歴史まちづくり計画」の国認定を受け、歴史や伝統・文化を活かしたまちなみの整備や観光資源の開発などを進めています。平成26年からは「ふくしまデスティネーションキャンペーン」のもと、観光地としての魅力を全国に発信し、多くのお客様にお越しいただきました。

地域資源に恵まれた白河市は、しかしながらまだまだその魅力が十分に知られていない状況にあります。この度の応援宣言によって地元の資源に光が当たり、魅力がより一層輝きを増すことで地域の活性化が図られますよう、一丸となって取り組んでまいります。

市民一同、おもてなしの心で皆様をお待ちしておりますので、ぜひ一度、白河の地にお越しください。

白河市長 鈴木 和夫

